

指標から見る現状

分析の観点	指標を活用した現状分析
① 経営の安定性	<ul style="list-style-type: none"> ・「経常収支比率」は、企業債残高の減少に伴う支払利息の減少等により、過去5年間に於いて100%を上回っており、健全な経営を維持しているといえます。 ・「企業債償還元金対減価償却費比率」は、企業債残高の縮減の取組により近年改善傾向にあります。しかしながら、未だ指標値が100%を上回っているため、企業債の償還財源を減価償却費で賄えていない状況です。 ・「企業債残高対事業規模比率」も同様に企業債残高の縮減により改善傾向にあり、類似団体平均並みとなっていますが、依然として高い水準にあることから、企業債への依存度が高い状況といえます。
② 施設の効率性	<ul style="list-style-type: none"> ・「施設利用率」、「最大稼働率」ともに類似団体平均よりも低い水準にあるものの、既存施設を活用した水質向上に取り組むなど、施設を有効に活用しています。 ・「有収率」は、類似団体平均より高い水準にあり、上昇傾向にもあることから、不明水の少ない効率的な汚水処理ができていますといえます。
③ 使用料	<ul style="list-style-type: none"> ・「汚水処理原価」は、企業債残高の縮減に伴う支払利息の減少により低下してきており、類似団体平均を下回っていることから、効率的な汚水処理が図られているといえます。 ・「使用料単価」は、有収水量が増加してきていることから、近年低下傾向にあります。令和2(2020)年度は有収水量が増加した一方で使用料収入が減少したため、指標値が大きく下がりました。 ・「経費回収率」は、企業債残高の縮減に伴う支払利息の減少により改善傾向にあり、類似団体平均より高い水準にあります。なお、過去5年間に於いて100%を超えており、使用料収入で汚水処理費を賄うことができています。
④ 老朽化	<ul style="list-style-type: none"> ・「有形固定資産減価償却率」は、近年増加が続いており、類似団体平均よりも高い水準にあります。点検・調査を踏まえた適切な維持管理の取組により施設の長寿命化を図りながら、順次更新を進めています。 ・「管きょ老朽化率」が上昇傾向にあることから、管きょの老朽化が進行している状況といえます。また、「管きょ改善率」は類似団体平均並みではあるものの、指標値としては低い水準となっています。しかし、これについては法定耐用年数を超過して間もない管きょが多いことから、適切な維持管理等を行うことにより、下水道の機能を維持できています。

総括

経営指標を活用した現状分析の結果、本市は「①経営の安定性」の指標である「経常収支比率」が100%を上回っており、「③使用料」の指標である「経費回収率」も100%を上回っているため、現状では健全な経営を維持しているといえます。ただし、「①経営の安定性」の指標である「企業債残高対事業規模比率」が高い水準にあることから、企業債への依存度は高い状況といえます。また、「④老朽化」の指標である「有形固定資産減価償却率」が上昇傾向にあることから、施設の老朽化が進行している状況といえます。

これらの現状を踏まえた今後の方向性として、企業債の収支への影響を注視し、事業の平準化を考慮しながら適切な投資を行っていくとともに、適切な資金の活用方法や財源の確保について検討していく必要があるといえます。

老朽化の進行に対しては、今後更に老朽化した施設が増加することを考慮し、アセットマネジメント手法(P.123参照)により、引き続き適切な維持管理と状態把握に基づく長寿命化を図りながら、リスクとコストのバランスを踏まえた効率的な更新を行っていく必要があるといえます。

加えて、効率的な維持管理等、経営改善に引き続き取り組むことで、経費回収率100%以上を確保し、健全な経営を続けていく必要があります。

第4章 計画推進の方向性

1 計画推進の考え方

本計画では、前中期計画の中間評価を踏まえて、前中期計画の取組を概ね継続（前中期計画期間中に完了する取組は廃止）しつつ、前中期計画の取組では対応できない事業環境の変化や経営課題に対して、取組の見直しを図ることで対応していきます。

そこで、本計画の策定に当たって認識した課題を整理するとともに、課題の解決に向けた施策及び取組の見直しの考え方を5つの視点で整理しました。

(1) 課題の整理

第1章の4「前中期計画の実施状況」、第2章の「事業を取り巻く環境の変化」、第3章の「経営の現状分析」を踏まえ、前中期計画から取組を見直して対応する必要がある課題として、次の5つが挙げられます。

1 激甚化・頻発化する自然災害

気候変動の影響による雨の降り方の変化、台風により本市が受けた深刻な浸水被害の教訓、迫り来る大規模地震などを踏まえ、災害に強い上下水道を目指していく必要があります。

2 施設の老朽化

本市の上下水道施設は老朽化が進行しており、今後はその進行が更に加速することが見込まれることから、将来の水需要動向等を考慮しながら、中長期的な視点で老朽化対策を行っていく必要があります。

3 温室効果ガスの排出

上下水道事業は、事業活動の過程において多くの電力を消費するとともに、温室効果ガスを排出していることから、脱炭素化に向けた取組を積極的に進める必要があります。

4 社会の急速なデジタル化

新型コロナウイルス感染症による社会全体の行動変容を受けた急速なデジタル化に対応するため、デジタル化の推進によるお客さまの利便性向上、事業運営の効率化を図る必要があります。

5 厳しさを増す経営環境

将来の人口減少に伴う水需要の減少や老朽化した施設の更新等にかかる事業費の増加など、厳しさを増していく経営環境においても、経営を持続可能なものとしていく必要があります。

(2)見直しの視点

(1)の課題への対応の考え方を次の5つの視点で整理するとともに、視点を踏まえて、前中期計画から施策及び取組の見直しを行います。

※ **新**:新たに追加する取組、**拡**:内容を拡充する取組

視点1 激甚化・頻発化する自然災害への備え

安全・安心

強靱

大雨・台風や大規模地震などに備え、浸水対策や地震対策をハード・ソフト両面から推進します。

新 取組15 施設の停電対策・浸水対策(P64)

拡 取組29 重点化地区・局地的な浸水箇所における浸水対策(P97)

新 取組30 水処理センター・ポンプ場の耐水化(P102)

拡 取組34 災害時の連携強化と災害リスク情報の発信の推進(P115)

視点2 老朽化した施設への対策

持続

老朽化した施設の計画的な更新に合わせた新たな整備を推進します。特に工業用水道事業については、将来の需要動向を考慮し、適正規模での更新を検討します。

拡 取組11 水道基幹管路の強化(P52)

拡 取組12 工業用水道基幹管路の強化(P54)

新 取組20 施設・管路の将来構想(P76)

視点3 脱炭素社会の実現

環境

脱炭素社会の実現に向けて、再生可能エネルギーの有効利用、創エネルギーの導入、省エネルギー機器の採用などを行い、脱炭素社会の実現に貢献します。

拡 取組26 省エネルギー対策(P88)

拡 取組45 地球温暖化対策(P139)

拡 取組59 資産の有効活用(P164)

視点4 デジタル化の推進

持続

新しい日常に対応し、市民サービスの更なる向上と行政組織の効率化を推進するため、デジタルファーストの行政サービスの提供や市役所内部のデジタル化の取組を推進します。

拡 取組52 給水装置関連業務のオンライン化(P152)

拡 取組53 新たなサービスの提供に向けた取組(P153)

新 取組58 デジタル化の推進(P163)

視点5 経営基盤の強化

持続

厳しさを増す経営環境に対応するため、料金・使用料のあり方の検討や、適切な資金の活用・財源の確保に向けた検討など、持続可能な経営に向けた取組を実施します。

新 取組60 財政基盤の強化に向けた検討(P166)

2 施策体系

本計画は、上下水道ビジョンの体系に基づき、23の施策と60の取組で構成しています。



※上下水道ビジョンにおける「10年間の方向性」の記載順から変更しています。

内が中期計画(本計画) **新** 見直しの視点を踏まえて新たに追加する取組

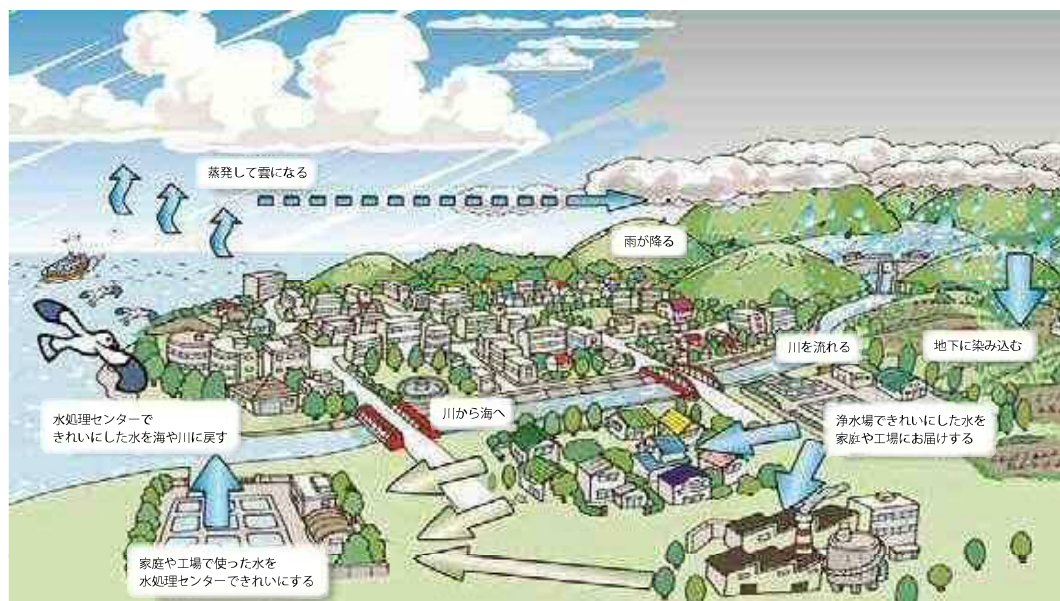
拡 見直しの視点を踏まえて前中期計画から拡充する施策・取組

施策(23)	取組(60)
施策1 水道水・工業用水の水質管理の徹底	取組1 水源の保全 取組2 安全でおいしい水の取組 取組3 工業用水の水質管理 取組4 受水槽設備の適正管理に向けた支援 取組5 直結給水方式の導入促進 取組6 市立小中学校の直結給水化
施策2 県内水道事業者や企業団等との広域連携	取組7 ダムの相互連携等による水運用 取組8 最適な水道システムの実現に向けた取組
拡 施策3 水道・工業用水道の災害時における機能強化	取組9 水道施設の耐震化 取組10 水道管路の耐震化 拡 取組11 水道基幹管路の強化 拡 取組12 工業用水道基幹管路の強化 取組13 応急給水拠点等の整備 取組14 災害時の飲料水確保 新 取組15 施設の停電対策・浸水対策
施策4 水道・工業用水道の危機管理対策	取組16 災害対応能力の強化 取組17 災害時の連携強化
拡 施策5 水道・工業用水道の施設・管路の老朽化対策	取組18 施設の計画的更新 取組19 管路の計画的更新 新 取組20 施設・管路の将来構想
施策6 水道・工業用水道の施設・管路の維持管理	取組21 施設の維持管理 取組22 管路の維持管理 取組23 管路付属物の維持管理 取組24 給水管の保全
拡 施策7 水道・工業用水道の地球温暖化対策	取組25 再生可能エネルギーの有効利用 拡 取組26 省エネルギー対策
施策8 水道・工業用水道の資源・施設の有効利用	取組27 資源・施設の有効利用 取組28 再生資源利用の推進
拡 施策9 浸水対策	拡 取組29 重点化地区・局地的な浸水箇所における浸水対策 新 取組30 水処理センター・ポンプ場の耐水化
施策10 下水道の管きよ・施設の地震対策	取組31 下水管きよの地震対策 取組32 水処理センター・ポンプ場の地震対策
拡 施策11 下水道の危機管理対策	取組33 災害対応能力の強化 拡 取組34 災害時の連携強化と災害リスク情報の発信の推進
施策12 下水道の管きよ・施設の老朽化対策	取組35 下水管きよの再整備 取組36 水処理センター・ポンプ場の再構築 取組37 水処理センター・ポンプ場の設備更新・長寿命化
施策13 下水道の管きよ・施設の維持管理	取組38 下水管きよの維持管理 取組39 水処理センター・ポンプ場施設の維持管理
施策14 下水道の高度処理	取組40 水処理センターの高度処理化
施策15 合流式下水道の改善	取組41 合流式下水道の改善
施策16 下水道の未普及地域の解消	取組42 下水道の未普及地域の解消
施策17 下水道の事業場指導・水質管理	取組43 事業場排水の指導 取組44 良好な放流水質の確保
拡 施策18 下水道の地球温暖化対策	拡 取組45 地球温暖化対策
施策19 下水道の資源・施設の有効利用	取組46 資源・施設の有効利用 取組47 再生資源利用の推進
施策20 お客さまとの信頼関係の構築	取組48 川崎の上下水道の魅力の情報発信 取組49 適正な給水装置・排水設備工事の確保 取組50 水道料金・下水道使用料の公平かつ適正な徴収
拡 施策21 お客さまの利便性の向上	取組51 上下水道お客さまセンターの品質向上 拡 取組52 給水装置関連業務のオンライン化 拡 取組53 新たなサービスの提供に向けた取組
施策22 世界の水環境改善に向けた国際事業	取組54 官民連携による国際展開 取組55 技術協力による国際貢献
拡 施策23 持続可能な経営基盤の確保	取組56 組織機構の見直し及び職員定数の管理 取組57 人材育成の推進 新 取組58 デジタル化の推進 拡 取組59 資産の有効活用 新 取組60 財政基盤の強化に向けた検討

コラム

水の循環

上下水道ビジョンの基本理念は、「健全な水循環により市民の生活を守る川崎の上下水道」です。水は生命の源であり、絶えず地球上を循環し、私たちに多大な恩恵を与えてきました。私たちの生活や企業の産業活動を支える上下水道は、自然の水循環の恩恵を受けるとともに、健全な水循環に貢献しています。



コラム

脱炭素社会の実現に向けた上下水道局の取組

本市では、令和2(2020)年11月に策定した「かわさきカーボンゼロチャレンジ2050」において、2050年のCO₂排出量実質ゼロを目指しています。また、令和4(2022)年3月に改定(予定)した「川崎市地球温暖化対策推進基本計画」では、市役所の温室効果ガス排出量の削減目標として、2030年度に2013年度比50%削減を目指しています。

上下水道局では「川崎市上下水道局環境計画」を策定し、環境に配慮しながら上下水道事業を運営していますが、事業活動の過程において、多くの温室効果ガスを排出しています。このため、脱炭素社会の実現に向けて、積極的な取組が求められています。

上下水道事業において排出される温室効果ガスは、電気の使用などに伴い発生する「エネルギー起源の温室効果ガス」と、下水汚泥を焼却する過程などで発生する「非エネルギー起源の温室効果ガス」に大別されます。

エネルギー起源の温室効果ガスの削減に向けては、高効率・省エネ機器の導入、最適な運転管理などによる省エネ化、太陽光発電設備・小水力発電設備・廃熱発電設備の導入などによる創エネを組み合わせる取組を推進します。また、2030年度に向けて、再生可能エネルギー電力の調達により、事業で使用する電力を100%再生可能エネルギー電力で賄うことを目標とする「RE100(Renewable Energy 100%)」を目指します。

非エネルギー起源の温室効果ガスの削減に向けては、汚泥焼却施設の更新や既設焼却炉の改造による高温焼却化・二段燃焼化を進め、温室効果ガス排出量の削減に取り組めます。

上下水道局では、2050年のCO₂排出量実質ゼロに向けて、排出した温室効果ガスを減らす技術などの調査研究に取り組むとともに、排出量取引についても検討します。

